

個別最適な学びの実現と単元デザイン

糸満市立米須小学校 校内研修 2023年7月27日(木)

研究主題

自ら見通しをもち、自己調整をしながら、自立して学習する児童の育成

研究副題

～「個別最適な学び」に視点をおいた授業改善の工夫を通して（1年次）～

- 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会」
（国立教育政策研究所、2020）
- 文部科学省『小学校学習指導要領』（東洋館出版、2018）
- 文部科学省『小学校学習指導要領 解説社会編』（日本文教出版、2018）
- 文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編』（東洋館出版、2018）
- 中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」

https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf

- NITS 独立行政法人教職員支援機構「学校にいけるICTを活用した学習場面」
https://www.nits.go.jp/materials/intramural/files/076_001.pdf（参照日 2023年5月1日）

- 「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）」（参照日 2023年5月19日）

https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt_kyoiku01-000013731_09.pdf

琉球大学大学院教育学研究科（教職大学院） 白尾裕志

研究主題

自ら見通しをもち、自己調整をしながら、自立して学習する児童の育成

研究副題

～「個別最適な学び」に視点をおいた授業改善の工夫を通して（１年次）～

見通し	単元：学習問題の設定と学習計画の間 授業：学習のめあての後の予想
自己調整	「主体的に学習に取り組む態度」の評価における「観点別評価」（成果物）と「個人内評価」（「振り返り」等）で見取る児童の学習に対する姿勢が表現されたもの
個別最適な学び	教師の「個に応じた指導」によって児童が取り組んだ学習活動

研究主題を単元・授業レベルで見える化(試案)

「自ら見通しをもつ」(学習の見通し)

単元の初めの段階	単元の第1時～2時の学習問題の設定時において、学習問題への予想から、どうすれば学習問題を解決できるかの思考を通して、解決のための手立て(方法)の確認とその順番を仮に決めることが「学習の見通し」をもつことであり、言語化したものが「学習計画」になる。
各授業の段階	授業の導入段階での「学習のめあて」の設定時において、「学習めあて」への予想から、どうすれば「学習めあて」を解決(あるいは「めあて」に沿った学習活動が)できるかの思考を通して、解決のための手立て(方法)の確認とその順番を仮に決めることが「学習の見通し」をもつことになる。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関わる「自己調整」

学習指導要領解説「総則」(2018年2月)

主体的に学習に取り組む態度」の評価

観点別評価(学習状況を分析的に捉える)を通じて見取ることができる部分

指導と評価の
一体化を図る場

- ① 論述
- ② レポートの作成、発表
- ③ グループでの話し合い
(まとめ・発表)
- ④ 作品の制作等

評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価する多様な活動を評価対象

多面的・多角的な評価

個人内評価(個人のよい点や可能性、進歩の状況について評価する)を通じて見取る部分

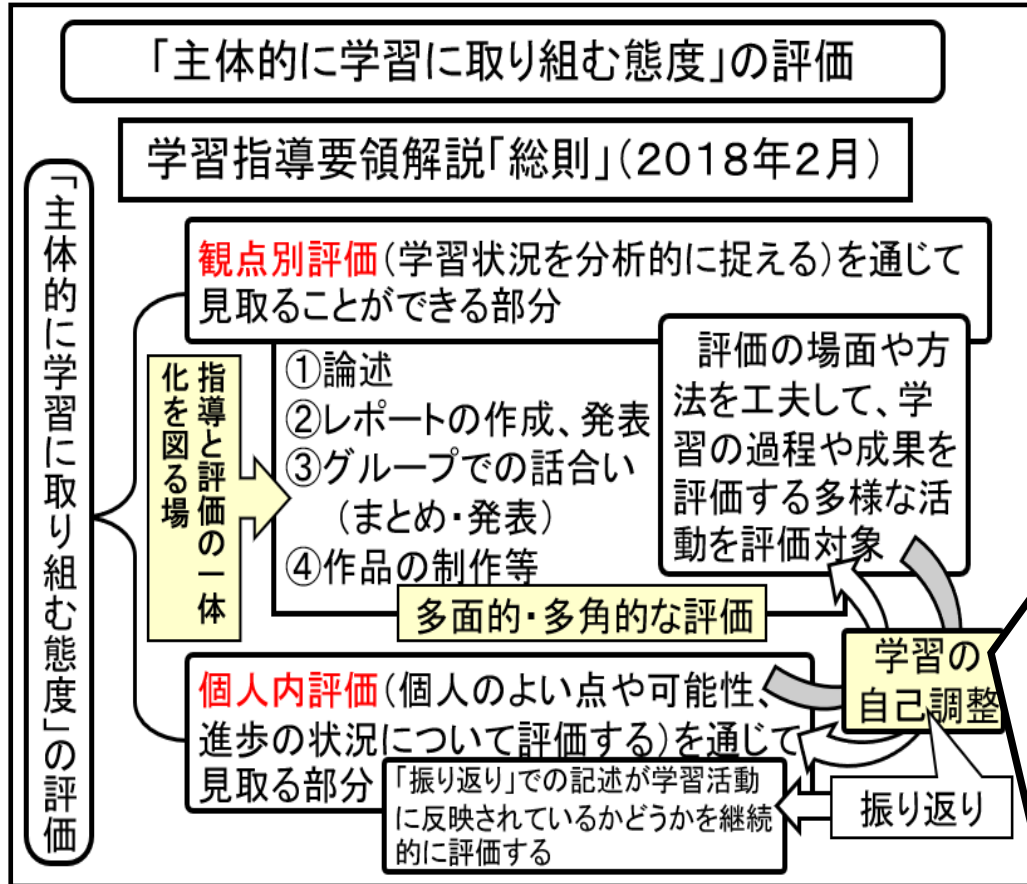
「振り返り」での記述が学習活動に反映されているかどうかを継続的に評価する

学習の
自己調整

振り返り

研究主題を単元・授業レベルで見える化(試案)

「自己調整」



「学習の自己調整」が、学習活動の最中や授業の終末時の「振り返り」に現れるとすると、その場での「言語化」が重要な役割を果たす。「振り返り」が「主体的に学習に取り組む態度」の評価で重視される理由もそこにある。

授業の展開時における児童の試行錯誤の言語化は学習活動の工夫が必要だが、「振り返り」を中心に工夫することで、把握の可能性は広がる。

ただし、「自己調整」は学習問題や「学習のめあて」に対する児童の真剣な向き合いから生じることを期待するならば、授業全体を問題解決的な学習にすることが第一で、「振り返り」の観点をいくつも教師から要求すべきではない(白尾)。

令和の日本型学校教育

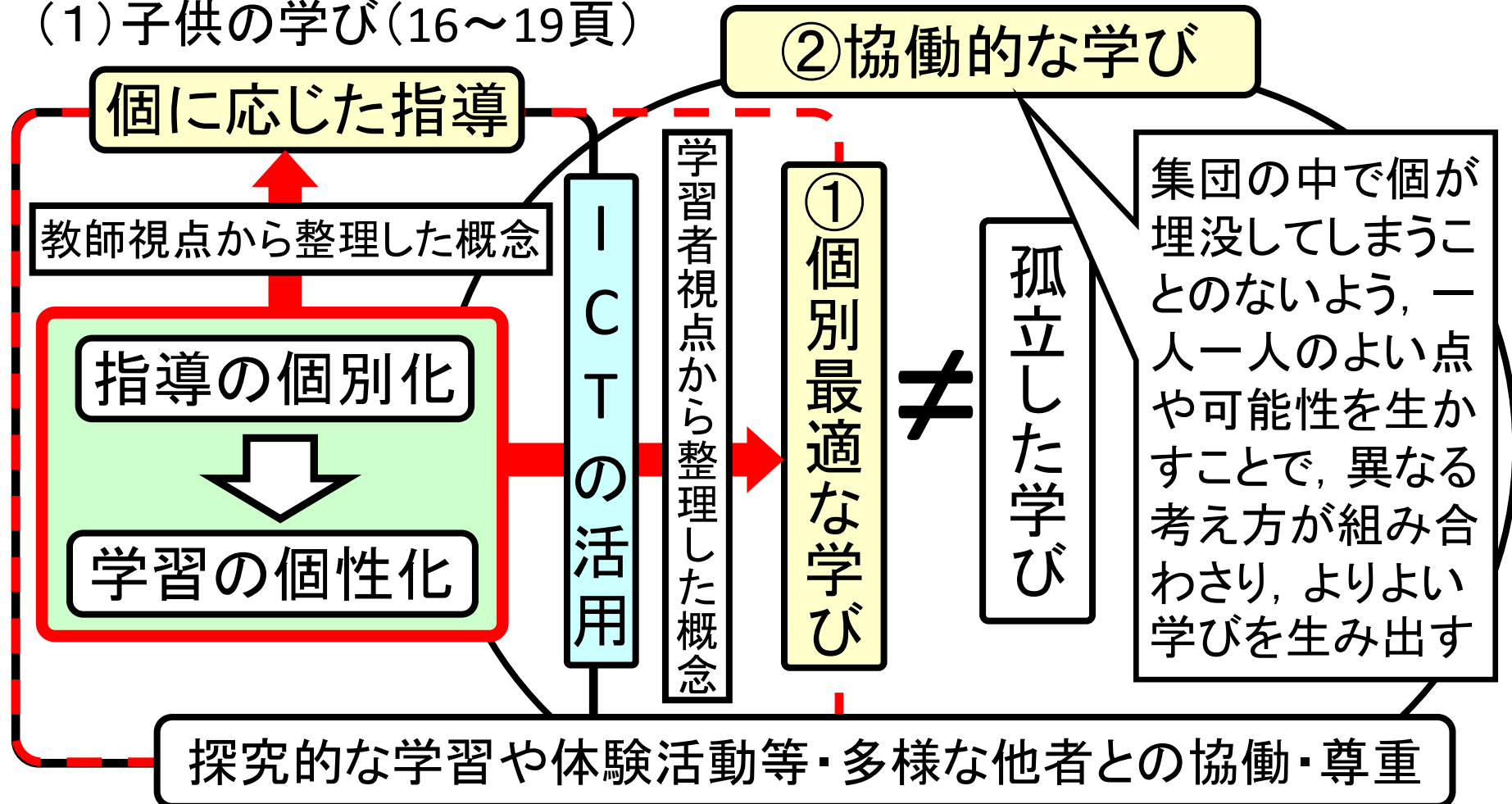
前提

子供たちの多様化

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」(中教審答申)2021年1月

(1) 子供の学び(16～19頁)



研究主題を単元・授業レベルで見える化(試案)

(ICTを活用した)「個別最適な学び」

令和の日本型学校教育

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(中教審答申)2021年1月

(1) 子供の学び(16～19頁)

前提

子供たちの多様化

②協働的な学び

個に応じた指導

教師視点から整理した概念

指導の個別化

学習の個性化

ICTの活用

学習者視点から整理した概念

①個別最適な学び

孤立した学び

集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせられ、よりよい学びを生み出す

探究的な学習や体験活動等・多様な他者との協働・尊重

「これまで地道に取り組まれ蓄積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はない」。『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』(4頁)

「個別最適な学び」とは「個に応じた指導」による「指導の個別化」と「学習の個性化」を学習者(児童)視点から整理した概念である。

同様に「指導の個別化」と「学習の個性化」を指導者(教師)視点から整理した概念が「個に応じた指導」である。

教育のデジタル化の加速も考慮して「ICTを活用した個別最適な学び」としてまとめられているが、それが「孤立した学び」になることがないように「協働的な学び」がセットとなっているのが特長である。

「個別最適な学び」は従来の「個性を生かす教育の充実」をICT時代に即した再提起であり、「協働的な学び」は従来の多様な協同(共同)学習を前提としている。

個に応じた指導

① 個別最適な学び

指導の個別化

○教師が**支援の必要な子供**により**重点的な指導**を行うことなどで効果的な指導を実現する。

○子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、**指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定**を行う。

学習の個性化

○子供の**興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ**、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う。

○教師が**子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供すること**で、子供自身が学習が最適となるよう調整する。

協働的な学び

○探究的な学習や体験活動などを通じ、子供同士で、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成することを目指す。

協働的な学び の実践例

○ICTの活用により、児童生徒一人一人が自分のペースを大事にしながら**共同で作成・編集等を行う活動**。

○多様な意見を共有しつつ**合意形成を図る活動**。

○遠隔地の専門家とつないだ授業や他の学校・地域や海外との交流など、今までできなかった学習活動。

学校における ICT を活用した学習場面



図 4-1 学校における ICT を活用した学習場面

学校におけるICTを活用した学習場面の特長

学習形態	学習活動	特長
一斉学習	教員による教材の提示	説明、興味・関心を高める
個別学習	個に応じる学習	子供は、デジタル教材の活用によって、疑問について調べたり自分にあった進度で学習することが可能。教師は、子供の学習履歴(状況)を把握することで、個々の理解や関心に応じた「個に応じた指導」によって、「指導の個別化」や「学習の個性化」を図ることができる。
	調査活動	
	思考を高める学習	
	表現・制作	
	家庭学習	
協働学習 ※「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」	発表や話し合い	タブレットや電子黒板を活用して、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において、子供同士による意見交換、発表等、お互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力等を育成することが可能。
	協働での意見調整	
	協働制作	
	学校の壁を越えた学習	

※「個に応じた指導」だけが注目されがち。多様な個別学習がある。

学校におけるICTを活用した学習場面の特長

学習形態	学習活動	特長
一斉学習	教員による教材の提示	説明、興味・関心を高める
個別学習	個に応じる学習	子供は、デジタル教材の活用によって、疑問について調べたり自分にあった進度で学習することが可能。教師は、子供の学習履歴(状況)を把握することで、個々の理解や関心に応じた「個に応じた指導」によって「指導の個別化」や「学習の個性化」を図ることができる。
	調査活動	
	思考を高める学習	
	表現・制作	
	家庭学習	
協働学習 ※「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」	発表や話し合い	タブレットや電子黒板を活用して、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において、子供同士による意見交換、発表等、お互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力等を育成することが可能。
	協働での意見調整	
	協働制作	
	学校の壁を越えた学習	

①協働的な学びが「個別最適な学び・協働的な学びの一体的推進」につながるには、その前提となる、**個別学習におけるICT活用**が充実していることが前提。

②「①」が可能となるためには、「**一斉学習**」における**学習対象への興味・関心**の**もたせ方**や**そこでの「問い」の設定**が重要になる。

③「②」が可能となるには、「**学習問題**」や「**問い**」に対する「**予想**」の**活動**が重要になる。

問題解決的が学習過程で、子供の**興味・関心を持続させる学習展開**が前提⇒教材・「**問い**」・発問

学校におけるICTを活用した学習場面の特長

一斉学習

教員による教材の提示、画像の拡大 ページや書き込み、音声、動画などの活用

(1) 単元の初めや単元の各時間の導入時での一斉指導

① 単元の初め

学習問題づくり

◎単元の「学習問題」をつくるための最初のとっかかりになる資料等(教材・画像・動画等)の提示。

ここでの学習活動が興味・関心を促し、学習の動機づけ、児童にとっての切実感の醸成につながる。

解決へ

② 各時間の導入時

1時間の問い

◎1時間の授業のきっかけになる資料等(教材・画像・動画等)の提示。

ここでの学習活動が、後の個別学習、協働学習につながるように児童の興味・関心を促す。

『教育の情報化に関する手引き』(令和元年12月)が想定する個別学習

① 個別学習

一人一人の特性や習熟の程度などに応じて個に応じた学習を実施するに当たり、個々の特性に応じてカスタマイズできる学習者用デジタル教科書や、習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト等のデジタル教材を用いることにより、各自のペースで理解しながら学習を進めて知識・技能を習得することが挙げられる。

また、発音・朗読、書写、運動、演奏などの活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習を行うことにより、技能を習得したり向上させたりすることが可能となる。この際、デジタルポートフォリオを活用して記録したり、自己評価を行ったりすることも考えられる。

一人一人の特性や習熟の程度などに応じて個に応じた学習

個々の特性に応じてカスタマイズできる学習者用デジタル教科書

習熟の程度や誤答傾向に応じた学習者向けのドリルソフト等のデジタル教材

技能の習得に向けた記録・再生を通じた自己評価に基づく練習・自己評価

個別最適な学び

個に応じた指導によって、子どもが自己調整しながら学習を進める。

『教育の情報化に関する手引き』(令和元年12月)が想定する個別学習

② 調査活動	インターネットやデジタル教材を用いた情報収集, 観察における写真や動画等による記録など, 学習課題に関する調査を行うことが挙げられる。 学習者用コンピュータ等を用いて写真・動画等の詳細な観察情報を収集・記録・保存することで, 細かな観察情報による新たな気づきにつなげることができる。また, インターネットやデジタル教材等を用いたり, 専門家とつないだ遠隔学習を通じて, 効率のよい調査活動と確かな情報収集を行うことで, 情報を主体的に収集・判断する力を身に付けることができる。この際, インターネット等で得た情報に記号や番号等を付してソートし整理したりすることも考えられる。
③ 思考を深める学習	シミュレーションなどのデジタル教材を用いた学習課題の試行により, 考えを深める学習を行うことが挙げられる。試行を容易に繰り返すことにより, 学習課題への関心が高まり, 理解を深めることができる。また, デジタル教材のシミュレーション機能や動画コンテンツ等を用いることにより, 通常では難しい実験・試行を行うことができる。
④ 表現・制作	写真, 音声, 動画等のマルチメディアを用いて多様な表現を取り入れた資料・作品を制作することが挙げられる。 写真・音声・動画等のマルチメディアを用いて, 多様な表現を取り入れることにより, 作品の表現技法の向上につなげることが可能となる。また, 個別に制作した作品等を自在に保存・共有することにより, 制作過程を容易に振り返り, 作品を通した活発な意見交流を行うことが可能となる。

従来の指導法にICTを活用して多様な活動へ

『教育の情報化に関する手引き』(令和元年12月)が想定する個別学習

⑤ 家庭学習

学習者用コンピュータを家庭に持ち帰り、動画やデジタル教科書・教材などを用いて授業の予習・復習を行うことにより、各自のペースで継続的に学習に取り組むことが可能となる。また、学習者用コンピュータを使ってインターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れることが可能となる。

学習者用コンピュータを家庭で利活用

各自のペースで継続的に学習に取り組む。

インターネットを通じた意見交流に参加することにより、学校内だけでは得ることができない様々な意見に触れることが可能。

個別最適な学び

家庭で、子どもが自己調整しながら学習を進める。そこでの学習履歴(スタディ・ログ)は情報として教師のデータに反映される。

※以下、白尾の意見。家庭の格差が反映されやすいことを考慮に入れる必要。家庭学習をしない・できない子どもへの配慮・支援は不可欠。データに反映されない情報の確保・読み取りが求められる。

単元デザイン: 個別最適な学びと協働的な学びの一体化の見える化

単元『人物の変化をとらえよう』における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の単元デザイン試案

『新しい国語 四上』（単元『人物の変化をとらえよう』／教材文：『走れ』） ※文学的な文章

1 単元目標 中心人物の気持ちの変化とその理由について考えて読むことができる。

2 言語活動 人物の気持ちの変化を考えて読み、考えたことを伝え合う。 C(2)イ

3 指導計画（全10時間）（指導過程）

(1) **つかね**（読む…2時間）

これまでの学習を振り返り、学習の見通しを立てる。

① これまでの教科書の物語の登場人物を振り返る。

② 物語文『走れ』の中心人物とその人の気持ちの変化に気を付けて読む。

③ 初発の感想を書き、交流する。

④ 「学習のめあて」を作る。

のぶよの走ることへの気持ちや家族に対する気持ちはどのように変化したのかな。

また、どうしてその変化が起こったのかな。

⑤ 「学習のめあて」に対する予想を個別にまとめ、発表し合う。

(2) **取り組み**（読む…7時間）

① 場面ごとに出来事を捉え、それぞれの出来事を関連づけ、中心人物の変化を捉える。（第3～5時）

○ 文章中の「出来事」、登場人物の「気持ち」等、文章中の言葉を手がかりにして、

のぶよの気持ちを想像して、場面ごとにノートにまとめる。

※ 物語の展開に従って、場面ごとに読み進めながら、発問等で問いかけて、板書でも

整理しながら進める。合間に個別指導をしながら全員がまとめられるように指導する。

② **中心人物が、なぜ、どのように変化したのかを考え、自分の考えを友達と伝え合う。**（第6～8時）

※ **提案授業「白尾」第6時**

① のぶよの気持ちに変化した出来事やそこでの登場人物の言葉や行動に着目しながら、のぶよの

気持ちの変化を確認する。

② のぶよの気持ちの変化に影響を与えた出来事やそこでの登場人物の言葉や行動を複数選択して

のぶよにとって、どの出来事・登場人物の言葉・行動が重要だったかについて考える。

この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して、

大きな影響を与えたものは、どれだと思いますか。二つ以上選んで、理由をしっかりと

ノートに書いてください。

指示 ノートに書いた人は、選んだ出来事・登場人物の言葉・行動をジャムボードに書いて

送ってください。（ICTを活用した個別最適化の試み）

ア のぶよの気持ちの変化に影響を与えた出来事・登場人物の言葉・行動について、**多くの児童**

が共通にあげているものと少数の児童があげているものを確認する。

イ 「ア」についての理由を発表し合う。

※ 教師は必要に応じて、発表の内容について児童の考え（共感や異論等）を確認する。

発問 この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して

一番大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。

ウ 「振り返り」をまとめる

(3) **振り返る**（読む…2時間）

単元の学習を振り返る。

○ のぶよの気持ちの変化とその理由について、自分が考えたことをまとめ、発表し合う。

※ 「のぶよさんへの手紙」という形にしても良い。

ここまでを2時間

ここまで3時間

作文課題「のぶよに一番大きな影響を与えたこと」

最初は、送られたものが大型テレビで子どもには見えないようにしておく。ある程度、そろってから一斉に見せる。

第7時、8時は、第6時の協働学習での話し合いを基に文章化する。

第4学年 国語科学習指導案

米須小学校4年組 名

授業者 白尾裕志

- 単元名／教材名 人物の変化をとらえよう』(読む)／教材文：『走れ』 (東京書籍四上)
- 第2時間目の目標
中心人物が、なぜ、どのように変化したのかを考え、自分の考えを友達と伝え合うことができる。
- 本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1 前の時間の学習を振り返る。※「振り返り」 (1) 前の時間の「振り返り」から前時を想起する。 (2) 前時の学習を場面毎の出来事と中心人物(のぶよ)の変化を確認する。 2 本時のめあて のぶよの気持ちは、なぜ、どのように変化したのかを考え、友達と 伝え合おう 。	・よく書けている「振り返り」をほめる。 ・出来事と「のぶよ」の「変化」を確認させる。 「伝え合おう」という方向目標の「めあて」なので、「まとめ」は「伝え合い」の具体的表現でまとめる。※「めあて」が到達目標(～なぜだろう等)の場合は、到達した事柄や理解を「まとめ」とする。
	3 のぶよの気持ちの変化に大きな影響を与えた出来事・登場人物の言葉・行動を二つ以上選び、自分の考えをノートにまとめる。 この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して、大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。二つ以上選んで、理由をしっかりとノートに書いてください。 (1) 個別学習 として一人で取り組む(相談可)。	のぶよの気持ちの変化の理由と過程を考えるために出来事・登場人物の言葉・行動を選択・判断し、その理由付けをすることで「めあて」に迫る。 ・担任と共に机間巡視をする。 ・ノートに十分に書き込めていることを確認して、次の指示を出す。
展開 37分	ノートに書けた人は、選んだ出来事・登場人物の言葉・行動をジャムボードに書いて送ってください。※「理由」は書かない。発表時はノートを見て発表する。 (2) 端末を使った 個別学習 (3) 大型テレビでジャムボードの集計を確認する。 ・共通していることと少数意見を確認して、共通する理由や少数意見の理由を確認する。 4 のぶよの気持ちの変化について話し合う。 この物語の出来事・登場人物の言葉・行動の中で、のぶよの気持ちの変化に対して、一番大きな影響を与えたことは、どれだと思いますか。 (1) 話し合い	・担任と共に指示を出し、机間巡視する。 ・ ICTを活用した個別最適化の試み ・少数意見に児童の自立した読みの可能性がある。 ・ 協働学習 ・発言のキーワードから「まとめ」となる内容を板書しておく。
	5 学習のまとめ ・話し合いの発言内容からまとめる。 ・「振り返り」をノートに書く。 「振り返り」のテーマ：「のぶよに一番大きな影響を与えたこと」	・「振り返り」は学習活動全体を含んだ「問い」を考えさせることで行う。 ・時間があれば個人で発表させる。
まとめ		

これまでの学習を基に
個で考える学習活動と
集団で考える学習活動
を中心に「個別最適な
学びと協働的な学びの
一体化」を図る。

個別学習

- ①個に応じた学習
- ②思考を深める学習

個別指導によって
最適化を図る。

協働学習

- ①発表や話し合い
- ②協働での意見調整

協働学習を通した
個別最適化を図る。

個別学習

- ②思考を深める学習

協働学習

○タブレットpcや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。

協働学習の実践例

発表や話し合い	グループや学級全体での発表・話し合い
協働での意見整理	複数の意見・考えを議論して整理
協働制作	グループでの分担、協働による作品の制作
学校の壁を越えた学習	遠隔地や海外の学校等との交流学习

協働学習

協働学習の実践例

発表や話し合い	グループや学級全体での発表・話し合い
協働での意見整理	複数の意見・考えを議論して整理
協働制作	グループでの分担、協働による作品の制作
学校の壁を越えた学習	遠隔地や海外の学校等との交流学習

④ 学校の壁を越えた学習(学級)

⇒学習問題又はグループの課題に対して、個別の興味・関心に基づいた個別学習の成果を基に、個人やグループでまとめたことを遠隔地の学校等と交流する。

想定される活動

①協働での意見整理(グループ)

⇒学習問題又はグループの課題に対して、個別の興味・関心に基づいた個別学習の成果をグループの中で、タブレットや教科書、副読本等の資料を活用して発表し合い、意見・考えを整理する。

②発表や話し合い(グループ or 学級)

⇒学習問題の追究過程で、生まれた個別の興味・関心に基づいた個別学習の成果を、学習問題の解決に向けたグループや学級での話し合いの中で、タブレットや教科書、副読本等の資料を活用して発表する。

③協働制作(グループ or 学級)

⇒学習問題又はグループの課題に対して、個別の興味・関心に基づいた個別学習の成果を基に資料や作品として制作する。

問題解決的な学習

学習のめあて

予想と予想の吟味・見通し

個別学習

タブレットを使ってもよいし、それ以外の資料等も可。

個に応じた指導

個別最適な学び

個に応じた学習／調査活動／思考を深める学習／表現・制作／家庭学習

ここでグループ学習が入ることもある。

個の実態に応じた指導／興味・関心・こだわりを促す指導

「見方・考え方」を使った相互関係等を問う発問

協働学習

発表や話し合い

協働での意見調整

協働制作

学校の壁を越えた学習
(他校との交流学习等)

学習のまとめ・振り返り

「個別最適な学び」も「協働的な学び」も、最初は、これまでの教育実践に当てはめて考える。

演習：個別最適な学びを実現する単元デザイン

- (1) 前回の復習「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」について(10分)
- (2) 「個別最適な学び」の実現に向けた単元デザイン(110分)

- ① 学年単位で取り組み、教科は事前に決めておく。
- ② 必要な教科書等を準備する。
- ③ 決めた教科から2学期以降緒の単元を選ぶ。
- ④ 教師用指導書等から単元の全体計画を確認する。
- ⑤ 提案授業(6/29)の国語『走れ』の単元デザインを基に、単元の全体計画の中で、有効的な「個別最適な学び」が実現する可能性のある数時間を選択する。

※「個別最適な学び」は、児童が一人で取り組める学習活動。

- ⑥ 5つある「個別学習」の内のどの「個別学習」を使うかを明確にする。
- ⑦ 「⑥」の「個別最適な学び」に向かわせる指示や発問等を考える。
- ⑧ 「⑦」の「個別最適な学び」に連続する「協働的な学び」の学習活動を考える。
- ⑨ グループ毎に発表する。

※ 発表のポイント

- 1)単元全体計画から、その時間を「個別最適な学び」に選んだ理由
- 2)「個別最適な学び」に向かわせる指示・発問及び個別学習での教師の指導
- 3)「協働的な学び」へのつなぎ方

指定された様式・方法で学年毎に発表